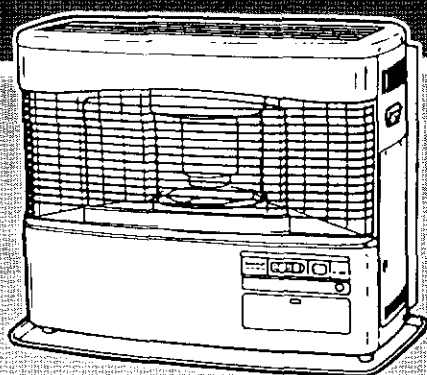
CORONA

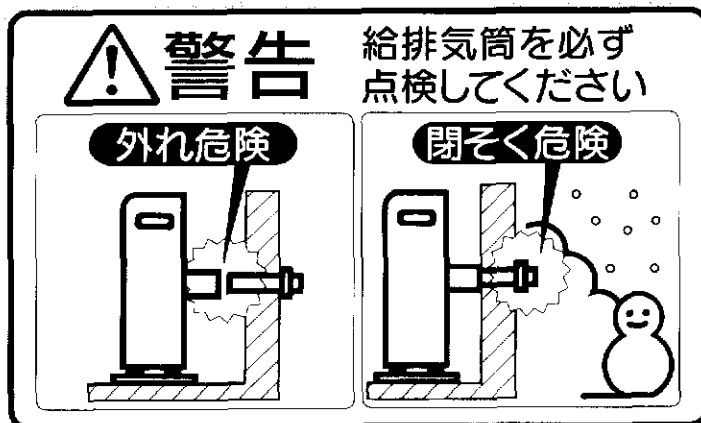
コロナ密閉式石油ストーブ

取扱説明書

正しく使って上手に節約

ユー エイチ エフ エイチアールエフ
UH-F65HRF

このたびはコロナ石油ストーブ（UH形）をお買いあげくださいましてありがとうございました。
ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をよく読んで、正しく使用してください。
まちがった取り扱いは思わぬ事故や故障の原因となります。
お読みになった後も取扱説明書は「保証書」・「工事説明書」と共に必ず保管してください。

もくじ

ページ

1. 特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警 告　この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

⚠注 意　この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

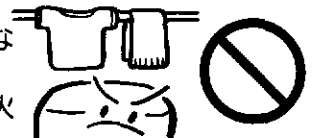
△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は一般的な注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合はガソリン禁止）が描かれています。

●記号は行為を指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

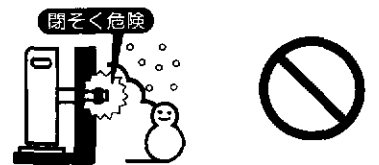
⚠警告（WARNING）

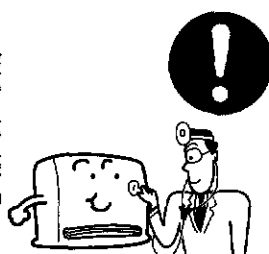
●ガソリン厳禁
ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。火災の原因になります。

●衣類の乾燥厳禁
衣類などの乾燥には使用しないでください。衣類が落下して火がつき、火災の原因になります。

●スプレー缶厳禁
スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを温風のあたるところに放置しないでください。熱で缶の圧力が上がり、爆発して危険です。

●低温やけどに注意
長時間皮膚の同じ場所に触れないでください。比較的低い温度でも低温やけどや脱水症状の原因となります。

●給排気筒（管、ホース）外れ危険
給排気筒（管、ホース）が外れたまま使用しないでください。
外れていると運転中に排ガスが室内にもれて、危険です。

●給排気筒トップ閉そく危険
積雪が多いときには、給排気筒トップの周りが雪でふさがれていないことを確認してください。ふさがれているときは、除雪してください。
また、板などによる「雪囲い」は給排気の妨げになるのでおやめください。
閉そくしていると運転中に排ガスが室内にもれて、危険です。

●給排気筒トップには金網などは付けない
給排気筒トップには、虫よけのための金網などは付けないでください。給排気の妨げになり、異常燃焼を起こし排ガスが室内に漏れる可能性があり危険です。

●定期点検の実施
定期的（2年に1回程度）に点検・整備を受けてください。点検を受けずに長期間使用し続けると、故障や事故の原因になり危険です。点検・整備はお買い求めの販売店や資格者のいる店に依頼してください。

●ご自身での据付け・移設工事の厳禁
お客さまご自身による工事は危険です。据付け工事は販売店や専門業者にご依頼ください。
（ストーブを移設させる場合も同じです。）

1.特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）

⚠注意(CAUTION)

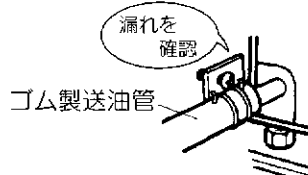
●カーテン、可燃物近接禁止

カーテンや燃えやすいものを近づけないでください。
火災が発生するおそれがあります。可燃物との離隔距離については
標準据え付け図例（２４ページ）を参照してください。

●給油時消火

給油は、必ず消火してから行ってください。
火災のおそれがあります。

●油漏れ確認

油タンク・ゴム製送油管・接合部および機器などからの灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。灯油が漏れていると火災のおそれがあります。

●異常時使用禁止

万一異常を感じたときは、使用しないでください。
異常燃焼のおそれがあります。

●高温部接触禁止

燃焼中や消火直後は、高温部、給排気筒、給排気筒トップ、枠上部に手などふれないでください。
やけどのおそれがあります。

●やかんのせ禁止

やかんなどをのせないでください。
振動や接触によってやかんの熱湯がこぼれ、やけどのおそれがあります。

●分解修理の禁止

故障、破損したら、使用しないでください。
不完全な修理は、危険です。

●腰をかけたり、物をのせないで

機器の上にのったり、腰をかけたりしないでください。機器の故障や、
やけどのおそれがあります。機器の上に花びんや水を入れたものなど
を置かないでください。水がかかると漏電や故障のおそれがあります。

●改造使用の禁止

改造して使用しないでください。
また、ストーブや給排気筒には床暖房用の熱交換器などを取り付けないでください。
火災や排ガスが室内にもれる原因となり危険です。

●電源コードを傷めない

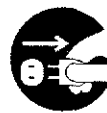
電源コードに無理な力を加えたり、物をのせたりしないでください。
また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。
火災や感電の原因になります。

●電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差しこんでください。
また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。火災の原因になります。ぬれた手での抜き差しはしないでください。感電の原因になります。

⚠注意(CAUTION)

●長期間使用しないときは電源プラグを抜く

長期間使用しないとき又は保管するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災や予想しない事故の原因となります。

●電源プラグのお手入れを

ときどきは電源プラグを抜き、ほこり及び金属物を除去してください。
ほこりがたまると湿気などで絶縁不良になり火災の原因になります。

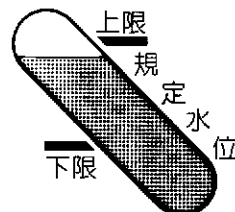
●灯油の保管

灯油は、火気、雨水、ごみ、高温および直射日光を避けた場所に保管してください。ガソリンなどと一緒に保管しないでください。
誤って使用すると異常燃焼や火災のおそれがあります。

●変質灯油禁止

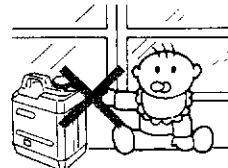
変質灯油（汚れた灯油、水の混じっている灯油など）を使用しないでください。
異常燃焼のおそれがあります。

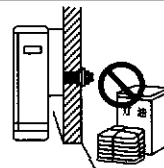
●シスターンの水位に注意

循環水は少しずつ蒸発します。
1ヶ月に1回程度は、シスターンタンクの水位が規定水位にあることを確認し、不足している場合は補充液を補給してください。
上限水位以上は、入れないよう注意してください。
（床暖パネルを接続しない場合は、循環水は不要です。）

●カーペットのはがれに注意

カーペットがずれたりめくれたまま使用しないでください。
床パネルに直接触れるとやけどのおそれがあります。

●循環液（循環水・不凍液）の保管に注意

幼児の手の届かない所に保管してください。
万一、飲んだ場合には吐かせて、医師の診断を受けてください。

●給排気筒付近の可燃物近接禁止

給排気筒トップの近くに、灯油や可燃物など引火のおそれのあるものを置かないでください。火災のおそれがあります。

●指や棒を入れないで

給排気筒トップに指や棒などを入れないでください。
ケガや火災の原因になります。

●初めてお使いになるときの注意

初めてお使いになるときは耐熱塗料などが焼付くまで煙と臭いが出ます。しばらくの間、窓をあけて部屋の換気を行ってください。
また、小鳥や小動物などに影響する場合が考えられますので、この間は部屋に入れないでください。

1.特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）

お願い（NOTICE）

●機器を廃棄するときの注意

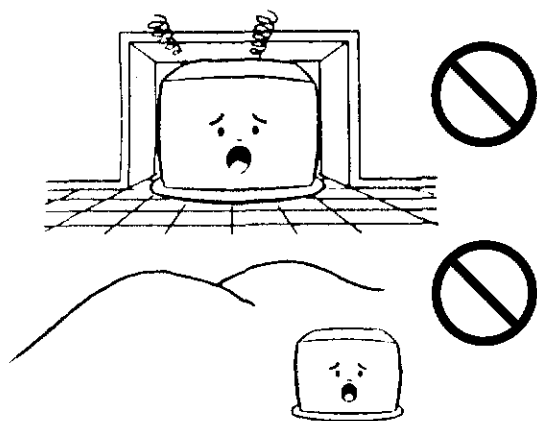
ストーブを廃棄処分するときは、定油面器の灯油を抜きとってください。（16ページ）
灯油を入ったまま廃棄するとリサイクルの際に思わぬ事故になるおそれがあります。

●灯油の廃棄

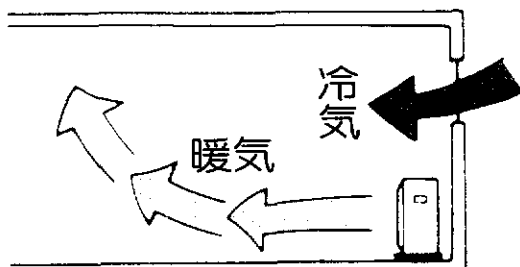
灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

2.使用する場所

ストーブを安全に使用するためには、場所の選定が大切です。

安全に使用するために

●マントルピースなどには据え付けないでください。

●標高が1000mを超える高地では使用しないでください。
（空気の濃度が薄いため、燃焼に必要な空気が不足します。）

効果的に使用するために

●冷気の入ってくる方向、例えば窓側などに置くと、冷気がストーブで暖められて対流しますので、効果的です。

出入口など人の通るところは、ぶつかると危険ですので避けてください。

●部屋の保温を工夫し、部屋の温度の調節を心がけましょう。

ストーブの前面に障害物があると、部屋の温度にむらができるばかりでなく、ふく射熱によってストーブ本体の温度が上昇して危険です。
使用場所には十分注意して効果的に使用してください。

外 観 図

正 面
上面ガード
上面板
前面ガード
とって
ガラス円筒
表示部
ルームサーモ
前板
定油面器
リセットボタン
調節脚
置台
操作部
背 面
冷却用送風機(内部)
ファンフィルター
過昇防止装置(内部)
(安全サーモスタット)
熱交サーモ(内部)
エアー抜きバルブ(内部)
本体固定金具
アクチュエータ(内部)
(リニアダンパー)
燃焼用送風機(内部)
水位計
給排気筒
水平器
給気ホース
ゴム管口
調節脚
電源コード
温水往き口
排気管抜け
検知用リード線
温水戻り口
構 造 図
燃焼筒ふた
放熱器
燃焼筒ふた押え
熱交換器(内部)
反射板
給水口
プリント配線板
スケルトン
安全サーミスタ(基板上)
燃焼リング(内部)
ポットバーナ
シスターン
タンク
電磁ポンプ基板(内部)
循環ポンプ
点火トランス(内部)
定油面器
対震自動消火装置
点火ヒータ
電磁ポンプ(内部)
切替サーモスタット
送油管

表示部の名称と働き

設定床温表示ランプ（緑）
- 床温調節ボタンで設定した床温を表示します。
- 床暖房運転時に点灯します。
- 左から3個目のランプが点灯したときは適温設定になります。

時刻表示(緑)
- 通常は現在時刻を表示します。
- タイマー運転時はタイマーセット時刻を表示します。

設定室温表示（緑）
- 室温設定ボタンで設定した室温をデジタル表示します。
- ストーブにトラブルが発生すると、トラブル箇所が記号表示（モニターサイン）されます。

運転ランプ(緑)
- 運転スイッチを押す（▄）と点灯します。
- もう一度押す（▐）と消灯します。

タイマー表示ランプ(緑)
- タイマー運転中は点灯します。
- タイマー運転停止中は消灯します。

セーブ運転表示ランプ(緑)
- セーブ運転中は点灯し、解除すると消灯します。
- 室温設定を10℃（F点設定）にすると自動的にセーブ運転になり点灯します。

運転スイッチ
- 押す（▄）と運転（点火）します。
- もう一度押す（▐）と消火します。

オープンポケット内操作部の名称と働き

■オープンポケットの開閉

●オープンポケットを軽く押し込むと、ゆっくり出てきます。操作後軽く押しもどすとロックして止まります。

操作するとき以外は、閉じてご使用ください。

■操作音について

●操作ボタンを押すとピッと音がします。
●誤操作をするとピッ音が2回します。

床暖切換スイッチ
- 「ストーブ床暖房」運転と「ストーブ単独」運転を切り換えます。

床温調節ボタン

温水出口温度を27～70℃の範囲に設定します。
- 「低」…1回押すたびに設定温度を6℃下げる。
- 「高」…1回押すたびに設定温度を6℃上げる。

時計調節スイッチ
- 「時計合せ」…現在時刻を合わせるときに「時計合せ」位置にします。
- 「タイマー合せ」…タイマーセット時刻を合わせるとき「タイマー合せ」位置にします。
- 「通常」…現在時刻やタイマーセット時刻を合わせたら、通常使用中は、「通常」に必ずもどしてください。

火力調節つまみ
- 火力調節つまみを「微少」から「大」の間で動かし火力をリニアに手動調節します。
- 火力調節つまみを「自動」に合わせるとルームサーモによる自動運転（室温設定ボタンで室温を設定）ができます。

時ボタン
- 時刻の「時」を合わせるときに使います。

分ボタン
- 時刻の「分」を合わせるときに使います。
- 時計調節スイッチの位置により、1回の押しの進み方が異なります。
  「時計合せ」…1分ずつ変わります。
  「タイマー合せ」…5分ずつ変わります。

タイマーセットボタン
- タイマー運転
  運転スイッチを「入」にし、タイマーセットボタンを押すことにより、タイマー表示が点灯、時刻表示にタイマーセット時刻が継続して表示され、タイマー運転が開始されます。
  （タイマー表示が点灯しなければタイマー運転は開始されません。）
- セット時刻になると、タイマー表示が消灯し現在時刻が表示されて自動的に運転が開始されます。
- タイマー運転の解除
  タイマー運転中にもう一度、タイマーセットボタンを押すとタイマー運転が解除されます。

室温設定ボタン
- 火力調節つまみを「自動」にするとルームサーモによる室温設定〔29～15℃、10℃（F点設定）〕ができます。
- 「高め」…設定温度を1℃ずつ上昇
- 「低め」…設定温度を1℃ずつ低下

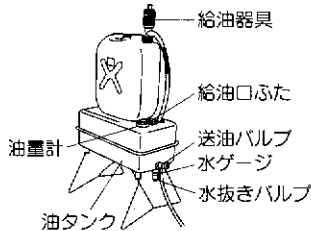
セーブ運転ボタン
- 1回押すとセーブ運転。室温が設定温度より一定温度上昇すると消火し、一定温度低下すると自動的に点火動作に入ります。
- 再度押すと、セーブ運転は解除されます。

燃　料

燃料は必ず灯油（JIS１号灯油）を使用してください。

- ●⚠警告 ガソリンなど揮発性の高い油は、火災の原因になりますので絶対に使用しないでください。
- ●⚠注意 変質灯油、汚れた灯油、水の混じっている灯油などは、絶対に使用しないでください。
- ●⚠注意 灯油は、必ず火気・雨水・ごみ・高温及び、直射日光を避けた場所に保管してください。

給　油

■給油の際の手順と注意

●送油バルブを閉じて給油口ふたをはずし市販の給油器具で灯油を給油してください。油量計の針が「満」をさしたら給油をやめてください。

●給油口ふたを必ずもとどおりに締めてください。

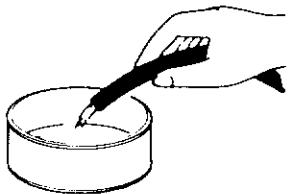
●給油の際に、水、ごみなどを入れないよう特に注意してください。

■給油口ふたは、確実に締めてください。

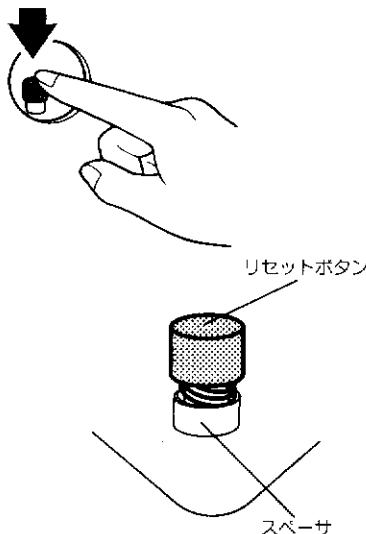
■こぼれた灯油はよくふきとってください。

■燃料切れの注意と空気抜きの方法

油タンクを空にしないように注意してください。

油タンクを一旦空にしますと、送油経路内に空気がたまり、正常に送油ができなくなることがあります。このような場合には次の順序で空気抜きをしてください。

1. 油タンクに給油します。
2. ストーブのゴム管口から、ゴム製送油管をはずします。
3. ゴム製送油管から油が連続して流れ出ることを確かめてからゴム製送油管をもとどおりにストーブに取り付けます。（油がこぼれないように容器を用意してください。）

運転開始前の準備と確認

■安全装置のセット、取扱上の注意

定油面器のセット

初めて使用するときや、シーズン初めには、ストーブ右側面の丸穴の中に指を入れ、定油面器リセットボタン（赤色）を軽く押し下げてください。

●リセットボタンは据え付け時や、シーズン初めに操作します。定油面器に強い衝撃を与えたり異常があったとき以外は、特に操作する必要はありません。
万一、点火操作後４～５分しても着火しなかったり、着火後２～３分で消火してしまう場合は、リセットボタンを押してください。
（安全弁がはずれ、灯油がスムーズに流れます。）

ご注意 リセットボタンを押す際は、スペーサをはずして押さないでください。
また、５秒以上押し続けたり、何回も押し下げたりなど乱暴に取り扱わないでください。
定油面器より油があふれ出たり、赤火などの異常燃焼の原因となる場合があります。

■送油経路の油もれの確認

●油タンクや送油管の接合部などから油もれがないかどうか確認してください。

■電気配線の確認

●⚠注意 **電源プラグをコンセントに刃の根元まで確実に差し込んでください。**

●電源コードが給排気筒などの高温部にふれるおそれのないことを確認してください。

ご注意 **電源プラグ・コードの発熱・発火を防ぐために…**

●**電源は必ず適正配線された単相100Vコンセントを使用してください。**

●**電源コードは、途中で接続したり延長コードの使用・他の電気器具とのタコ足配線をしないでください。**

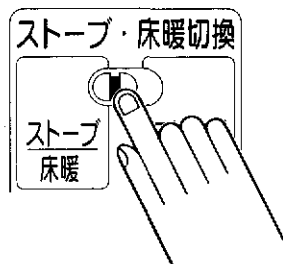
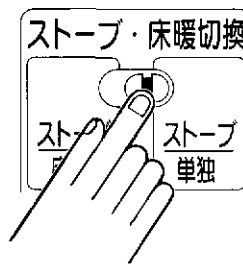
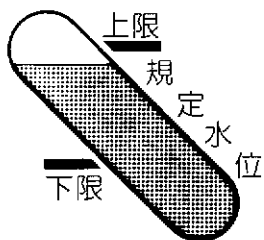
■接地(アース)の確認

●工事説明書にしたがい、接地(アース)がとられているかどうか確認してください。

■点火の要領と注意

床暖切換スイッチのセット

ストーブ単独で運転する場合は「ストーブ単独」に、ストーブ床暖房運転を行う場合は「ストーブ床暖房」に、床暖切換スイッチをセットしてください。床暖切換スイッチのセットは運転開始前に行ってください。

●ストーブ床暖房で運転する場合

●ストーブ単独で運転する場合

循環水の水位確認

●⚠注意 ストーブ左側面の水位計で、シスターンタンクの規定水位(上限水位と下限水位の間)まで循環水(コロナ床暖房用循環液)が入っていることを確認してください。循環水が入っている場合は黄色になります。
循環水は上限以上入れないよう注意してください。
水位が下限以下の場合は、床暖房専用補充液を入れてください。

温水配管の水もれの確認

●ストーブ内部や温水配管接合部から水もれがないか確認してください。

●床暖パネルの温水配管の途中にバルブを取り付けた場合は、必ずバルブが開いていることを確認してください。

■運転中に床暖切換スイッチを操作した場合の注意

むやみに、ストーブ単独←→ストーブ床暖房に切り換えないでください。循環水のつまりの原因になります。

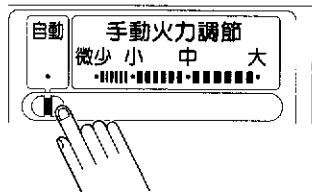
●ストーブ単独→ストーブ床暖房…自動的に一旦消火して、約15~20分後に再点火し、ストーブ床暖房運転を開始します。そのとき、「ジュー」という循環水の蒸発音が発生することがありますが異常ではありません。なお、熱交サーモの状態によっては、再点火後もストーブ単独のままの場合があります。この場合は運転スイッチを一旦「切」にし、冷却したあと(表示ランプ類消灯後)4~5分経過したあとに、「入」にしてください。

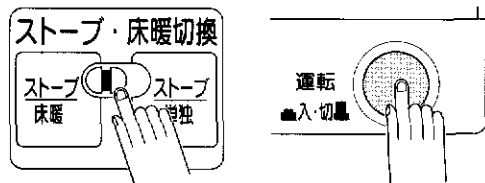
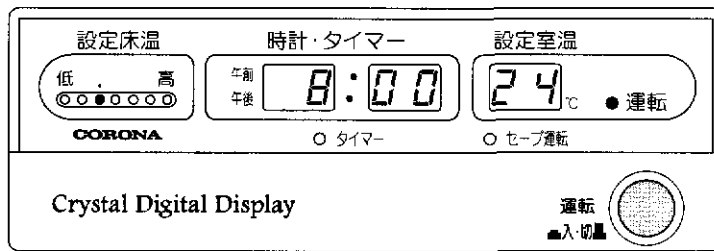
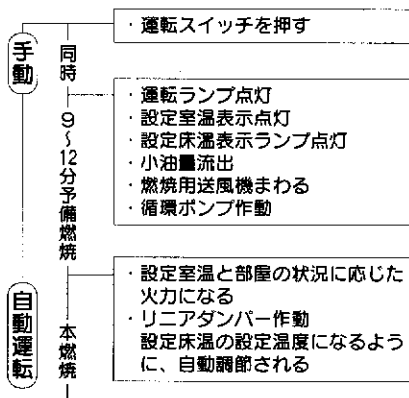
●ストーブ床暖房→ストーブ単独…運転はそのまま継続します。しばらくして「ジュー」という循環水の蒸発音がしますが異常ではありません。ますが異常ではありません。

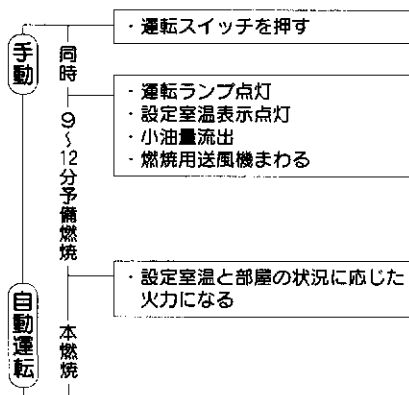
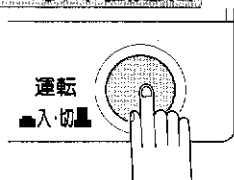
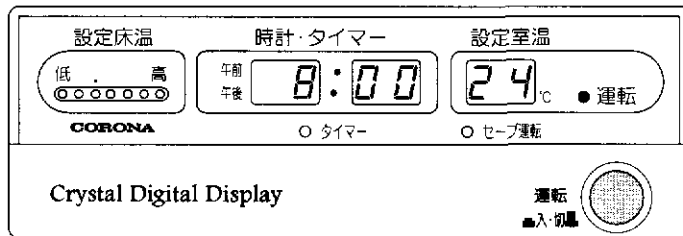
運転開始（点火）

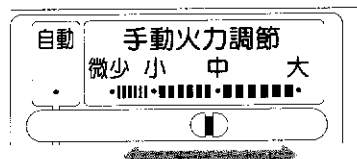
●オープンポケット内の火力調節つまみで「自動運転」と「手動運転」が設定できます。
ご希望の運転方法でご使用ください。

点火順序

■ストーブ火力調節「自動運転」の場合

●火力調節つまみを「自動」に合わせてください。設定室温と部屋の状況に応じた火力で燃焼します。
●時計合せは11ページ「現在時刻の調節方法」を参照して行ってください。

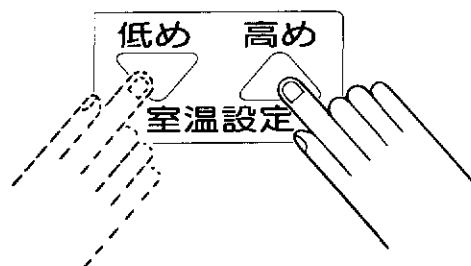
ストーブ床暖房運転

1．時刻表示が現在時刻を表示していることを確認してください。
2．オープンポケット内の床暖切換スイッチを「ストーブ床暖房」に合わせてください。
3．運転スイッチを押して「入」にしてください。
自動的に、次のように運転（予備燃焼・本燃焼）します。（ストーブ火力調節「手動」（微少～大）の場合は設定室温の表示はありません。）

※予備燃焼後、しばらくの間、火力は大きくなります。

ストーブ単独運転

1．時刻表示が現在時刻を表示していることを確認してください。
2．オープンポケット内の床暖切換スイッチを「ストーブ単独」に合わせてください。
3．運転スイッチを押して「入」にしてください。
自動的に、次のように運転（予備燃焼・本燃焼）します。（ストーブ火力調節「手動」（微少～大）の場合は設定室温の表示はありません。）

※予備燃焼後、しばらくの間、火力は大きくなります。

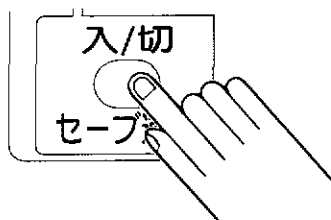
■ストーブ火力調節「手動運転」の場合

●オープンポット内の火力調節つまみを「微少」から「大」の間のご希望の位置に合わせてください。
表示部の設定室温表示が消え、予備燃焼が終了すると火力調節つまみの設定火力で燃焼します。ただし、予備燃焼後、約4分間は最大火力になりません。

●運転スイッチを「入」にした時、運転ランプが点灯せずにタイマー表示ランプが点灯する場合は、タイマー運転となりますので、タイマーセットボタンを押してタイマー運転を解除してください。
●燃焼中に運転スイッチを押して「消火」にしたり、タイマーセットボタンを押すなどして約3秒以上通電を止めますと自動消火し、燃焼室が冷却してからでないと再点火できません。

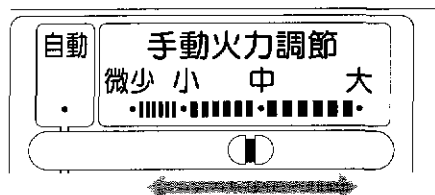
室温の調節（自動運転）

オープンポケット内の火力調節つまみを「自動」に合わせると、ルームサーモによる自動運転となり、設定室温に自動調節されます。
表示部に設定室温（24℃）が表示されますので次のように調節してください。

●室温設定ボタン「高め」を押すたびに1℃上昇します。（上限29℃）
●「低め」を押すたびに15℃までは1℃ずつ下がり、15℃からはいきなり10℃（F点設定）となります。
●10℃設定の場合はセーブ運転表示ランプが点灯し、セーブ運転となります。

セーブ運転

ストーブ火力調節「自動」運転時に、微少火力でも室温が設定室温より上昇する場合、設定室温より約3℃上昇すると自動的に消火し、設定室温まで下がると点火動作に入ります。これをくり返すことによりむだな部屋のあたため過ぎを防ぎます。

●室温設定ボタンにより希望の室温設定後、セーブ運転ボタンを押してください。
セーブ運転表示ランプが点灯し、セーブ運転となります。
●セーブ運転ボタンを再度押すことによりセーブ運転表示ランプが消え、セーブ運転解除となります。
（室温設定10℃（F点設定）で使用中、設定室温を15℃以上に上げるとセーブ運転表示ランプが消え、自動的に解除されます。）

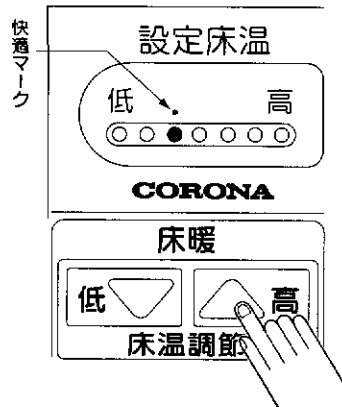
火力調節（手動調節－手動運転）

室温設定による自動運転の他に、火力調節つまみによる手動火力調節が可能です。
次のようにしてください

●火力調節つまみを「微少」から「大」の間のご希望の位置に合わせてください。
表示部の設定室温表示が消えて火力調節つまみの設定火力で燃焼します。

■炎の状態

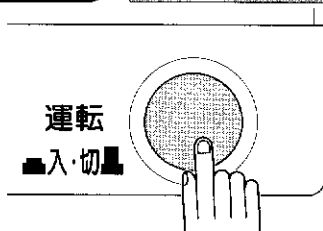
ストーブの据え付けや給排気筒の設置条件で、炎は多少変化します。
●炎の状態は、青い炎の中にいくらかの黄色い炎（赤火）が混じっても異常ではありません。
●炎が片燃えなどをする場合は、火力調節つまみをスライドさせて、炎の片燃えのないように調節してください。

床暖パネルの温度調節

ストーブ床暖房運転の場合、循環水が設定温度になるように、自動的に温度調節されます。又、設定床温表示ランプに快適マークがついています。快適マークは、床暖パネルのカーペット表面をほぼ33～34℃（床暖パネル３畳の場合）に保つ循環水温度を示します。ご参考にされると便利です。

1．特に温度設定しない場合は、自動的に快適マークの位置（設定床温表示ランプの3つ目）に設定されランプ表示します。
2．床温調節ボタンを押すと次のように床温調節でき設定床温表示ランプも移動点灯します。
・「低」……１回押すたびに設定温度を６℃下げ、ランプ表示が左側へ移動。
・「高」……１回押すたびに設定温度を６℃上げ、ランプ表示が右側へ移動。

●床暖の温度調節は、足元（床暖パネルの表面温度）の温度調節のため、部屋全体の温度調節ではありません。カーペットの表面が熱くなりすぎないよう使用温度には、十分注意してください。

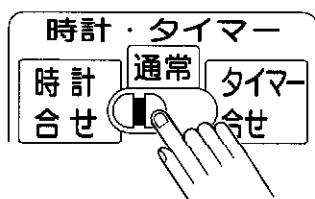
運転停止（消火）

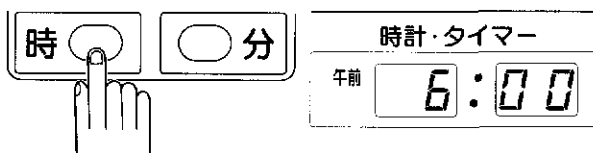
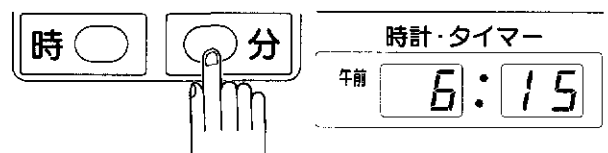
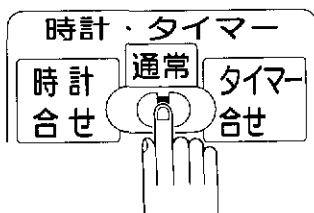
消火順序 ストーブ床暖房運転 ストーブ単独運転

運転スイッチを押して「切」にしてください。
運転ランプが消灯します。
燃焼室が冷却すると自動的に燃焼用送風機、循環ポンプ（ストーブ床暖房運転のみ）が停止し、時刻表示以外のすべてのランプが消灯します。

●⚠注意 ２日以上家をあけるなど長時間使用しない場合は、運転が完全に停止してから電源プラグをコンセントから抜いてください。
●外出のときは、必ず運転を停止（消火）してください。
●運転停止後、燃焼室が冷却（ランプ類が消灯）するまでは電源プラグを抜かないでください。もし抜きますと、ガラス円筒がくもったり、ストーブの表面温度が上昇します。

消火後、再点火するときの注意

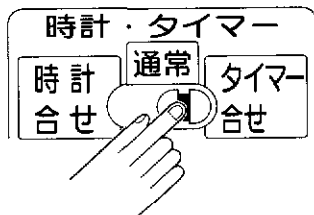
●燃焼中に誤って電源プラグを抜いたり、運転スイッチを「切」にすると、再点火安全装置の働きで、ストーブが冷却されるまで再点火できません。
ただし瞬間的な消火操作（約３秒以内）の場合は、そのまま燃焼が継続されます。
●停電時には、必ず運転スイッチを「切」にしてください。

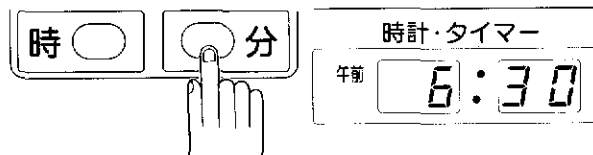
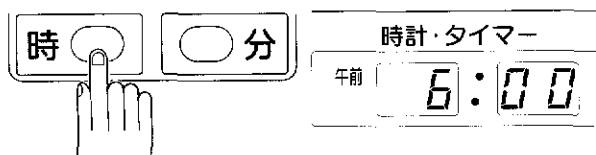
現在時刻の調節方法

1．オープンポケット内の時計調節スイッチを「時計合せ」にします。
はじめて使用するときや、電源プラグを長時間抜いたときは、時刻表示は0：00を表示します。
2．時計調節の「時」・「分」ボタンを押して現在時刻を合わせます。

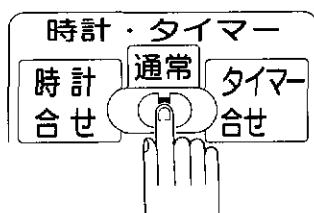
例：午前６時15分に合わせる場合

①「時」ボタンを押して“午前６：００”にします。

②「分」ボタンを押して“午前６：１５”にします。

3．必ず時計調節スイッチを「通常」位置にもどしてください。

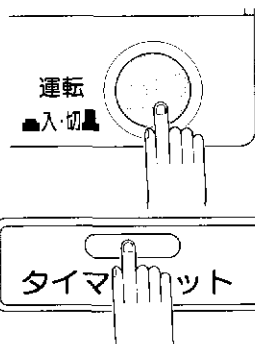
●必ず時計調節スイッチが「通常」になっていることを確認してください。

タイマーの使用方法

■運転時刻の合わせ方

1．オープンポケット内の時計調節スイッチを「タイマー合せ」にします。
2．時計調節の「時」・「分」ボタンを押してタイマー点火時刻を合わせます。「分」は5分ごとに動きます。

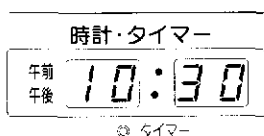
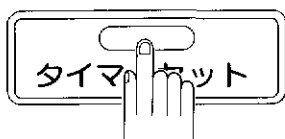
例：午前6時30分に合わせる場合

①「時」ボタンを押して“午前６：００”にします。
これでタイマーセット時刻が記憶されました。

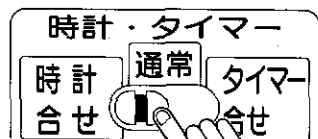
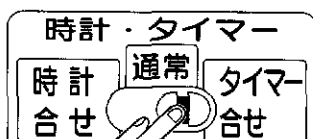
②「分」ボタンを押して“午前６：３０”にします。

3．必ず時計調節スイッチを「通常」位置にもどしてください。これで時刻表示には現在時刻が表示されます。

■タイマー運転方法 ストーブ床暖房運転 ストーブ単独運転

1．運転スイッチを押して「入」にしてください。
（燃焼中の場合はそのままです。）
2．運転するときのご希望の室温又は、火力に合わせてください。
3．床温調節ボタンで、床暖温度をご希望の温度に合わせてください。
（ストーブ床暖房運転のみ）
4．タイマーセットボタンを押してください。
時刻表示にタイマーセット時刻が表示され、タイマー表示ランプが点灯し、タイマー運転に入ります。
（この時、燃焼用送風機が10分間運転しますが異常ではありません。）

●タイマーセット時刻になるまでは、時刻表示にタイマーセット時刻が表示され続けます。
●運転中にタイマーセットボタンを押すと、ストーブは自動消火し、運転を停止します。

●タイマー運転は、運転スイッチが「入」になっていないと運転が開始されません。
●おでかけのときのタイマー点火は避けてください。

■タイマー運転の解除

●タイマーセットボタンを押します。
タイマー表示ランプが消灯し、時刻表示に現在時刻が表示され、タイマー運転が解除されます。
●このままであれば自動的に運転を開始します。運転を停止する場合は、運転スイッチも「切」にしてください。

■タイマーセット時刻・現在時刻の確認

現在時刻の確認

タイマーセット時刻の確認

①時計調節スイッチを「時計合せ」又は「タイマー合せ」に合わせます。
②現在時刻又は、タイマーセット時刻が時刻表示に表示されます。
③確認後、時計調節スイッチは、必ず「通常」位置にもどしてください。

ポットバーナに油をためてしまったとき

●ポット内に油がたまった場合、このまま点火操作をすると異常燃焼したり、点火不良となります。ボロ布などでポット内の油を吸いとってください。（17ページ「ポットバーナの掃除」を参照。）
ポットバーナに油がたまったことに気付かないで点火したときは、ポットにたまった油が燃えつきるまで炎が大きくなって燃焼します。
このようなときは、すぐ運転スイッチを「切」にし、たまった油が燃えつきるまでそのままお待ちください。このとき電源コードのプラグは抜かないでください。

●この場合、ガラス円筒がすすけることがあります。ストーブが冷却してから燃焼筒ふた、スケルトンをはずしてガラス円筒を掃除してください。
（17ページ「ガラス円筒内部の掃除」参照。）

モニターサインについて

ストーブにトラブルが発生すると、トラブル箇所が設定室温表示に記号表示（モニターサイン）されます。
この場合記号表示の内容を、ストーブ左側面に印刷されたモニターサイン一覧表、または19~20ページ「故障・異常の見分け方と処置方法」をご覧の上、必要な処置をしてください。

使用上の注意

床暖パネルの温度調節

●床暖の温度調節は、足元（床暖パネルの表面温度）の温度調節のため、部屋全体の温度調節ではありません。
カーペットの表面が熱くなりすぎないよう使用温度には十分注意してください。

循環水の凍結予防（循環液の注入）

寒冷地だけでなく、暖かい地域でも凍結予防及び腐食予防のために、必ず循環液を入れてください。
●循環液は必ずコロナ床暖房用循環液（別売品）をご使用ください。他の不凍液を使用したり、混合したりすると製品の寿命が短くなります。
●循環液は3年を目安に入れかえてください。（開封した循環液も含む）

結露水の処理

●排気管に結露水がたまった場合は、お買い求めの販売店に点検を依頼してください。

本書の「特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）」の他に、次の項目についても注意してください。

●上面ガードは、地震などにより可燃物が落下したときなどに火災を防止するためのものです。やむをえず取りはずした場合は、必ずもとの状態に取り付けておいてください。
●クリーニング店、美容院などの化学薬品を使うところや温室、飼育室など、動植物の育成栽培に使用しないでください。
●雷が発生したとき、雷（誘導雷）により一時的な過電圧がかかっても、過電圧防止装置が機器を保護するしくみになっていますが、大きな雷（直撃雷など）の場合は、電子部品を損傷するおそれがありますので、電源プラグをコンセントから抜いてください。

対震自動消火装置

地震（震度約5以上）や強い振動、衝撃を受けた場合、自動的に消火します。
モニターサインＥ３表示

地震によって作動した場合、周囲の可燃物、ストーブの損傷、油もれ、給排気筒のはずれなど異常がないことを確認してから再度点火操作をしてください。

点火安全装置

異常燃焼を防止するため、点火ヒータおよび燃焼用送風機に通電される前に、灯油が流出しない構造になっています。

停電安全装置

停電や電源プラグが抜けたときは自動的に消火します。
（１秒以下の停電の場合は燃焼継続）

通電後設定室温表示にモニターサインＥ７が表示されます。
・再運転するときは、時計などのセットをしてから、運転スイッチを再度「入」にしてください。

7.その他の装置

再点火安全装置

消火直後、ストーブが冷却しないうちに再点火操作をしても、燃焼室の温度が一旦冷却してからでないと燃焼しないようになっています。

不着火検出装置

着火不良のため、点火操作後約20分経過しても切替サーモスタットが切り替わらない場合は、運転を停止します。
モニターサインＥ２表示

不着火の原因を取り除き（ポットバーナ内に油がたまった場合は取り除き）点火操作をしてください。

循環水過昇防止装置

循環水が極端に減少するなどのために、熱交換器出口温度が95℃以上に上昇すると、自動的にストーブ単独運転に切り替えます。
モニターサインＦ１表示

- ストーブを一旦消火して循環水過昇原因を取り除き、点火操作をしてください。
- なおも異常がある場合はお買い求めの販売店にご相談ください。

過電流防止装置

内部配線のショートにより過電流が流れたとき、電流ヒューズが切れ、すべての運転を停止します。

ショートの原因を取り除いてから電流ヒューズを交換し、点火操作をしてください。

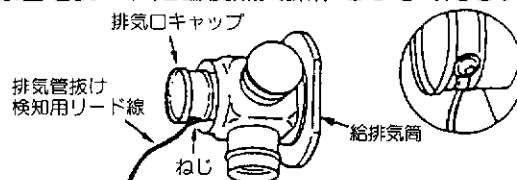
過昇防止装置（安全サーモスタット：105℃）

冷却用送風機が故障したり、ファンフィルターがごみやほこりで目詰まりすると自動的に消火し、ストーブの過熱を防止します。
モニターサインE4表示

過昇原因を取り除いてから点火操作をしてください。

排気管抜け検知装置

排気管の接続部がはずれたときや、排気管抜け検知用リード線がはずれたり、断線したときには、安全装置が作動し、モニターサインＥ５が点灯し消灯します。
排気管抜け検知装置が作動している場合は、モニターサインＥ５が点灯し点火できません。
排気管抜け検知装置にたよらず、給排気筒や延長管を月に１度は点検してください。

原因を調べ、処置後点火操作をしてください。

排気管抜け検知用リード線のゆるみまたは、はずれ・切れがないか確認してください。

燃焼用送風機異常検出装置

燃焼用送風機の回転数が異常に低下するとストーブの運転を停止します。
モニターサインＥＡ表示

- 異常低下の原因を取り除いてから点火操作をしてください。
- なおも異常がある場合はお買い求めの販売店にご相談ください。

安全サーミスタ

ストーブの上面及び側面が囲われているときや、ストーブの前面に障害物などがあって、プリント配線板部温度が73℃以上に上昇すると、自動的に消火します。
モニターサインＥ０表示

- 過昇原因を取り除いてから点火操作をしてください。
- なおも異常がある場合はお買い求めの販売店にご相談ください。

8.日常の点検・手入れ

点検、手入れのときの注意

点検・手入れは消火後、ポットバーナが冷却してから、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

⚠注意 電気部品の分解や市販品との交換は絶対にしないでください。
電磁ポンプ基板のボリュームは絶対にさわらないでください。

点検、手入れの必要項目、時期、方法

■周囲の可燃物（使用ごと）

● **⚠注意** ストーブの周囲は、常に整理・掃除し、燃えやすいものを置かないでください。

■ほこり・汚れ（使用ごと）

●ほこりや汚れをそのままにしておきますと、油がしみたりして危険です。
ストーブはいつも清潔にしてご使用ください。

■油もれ・油のたまり・油のにじみ（使用ごと）

●置台・油タンクに油もれ・油のたまりや油のにじみがないか、ときどき点検してください。
又、給油の際にこぼれた灯油は、よくふきとってください。

●油もれのある場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

■ゴム製送油管の点検・交換の目安（シーズン初め）

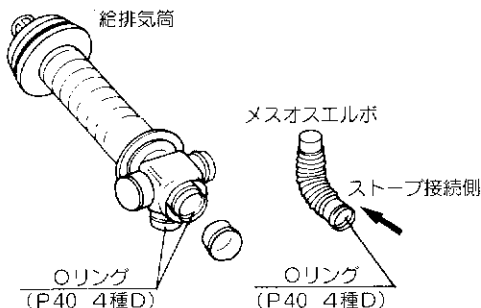
● **ご注意** ゴム製送油管は、屋外で使用しないでください。
屋外での使用は禁止されています。

●屋内でゴム製送油管を使用しているときは、膨潤、収縮、変質、変形、ひび割れがないか確認し、欠点のあるときは交換してください。
交換の目安は、３年に一度です。

■油タンク（シーズンの初め、適時）

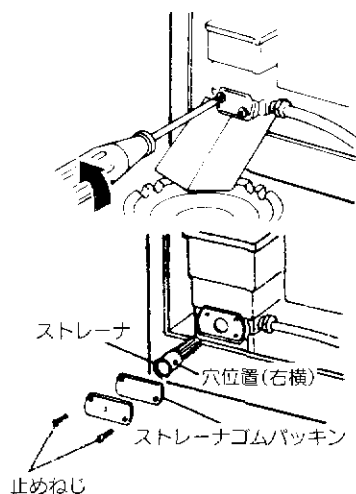
●油タンク内は水やごみがたまりやすいものです。給油のとき、点検してください。
油タンク内の水抜き及び掃除は、油タンク付属の取扱説明書に従って行ってください。

■給排気筒の接続部のゆるみ及びトップの周囲（月に1回程度）

●給排気筒及び、トップの周囲に障害物が置いてないか、ときどき点検してください。
●給排気筒がつまりますと、不完全燃焼をおこします。シーズン初めには必ず点検し、くもが巣をつくったり異物が入ったりしているときは、必ず掃除してください。

●給排気筒及び、排気管の接続部がはずれたり、排気管抜け検知用リード線がはずれたり、断線していないか点検してください。
●給排気筒を一度取りはずして、再び取り付けるとき、排気管の接続部内部にはめこんであるOリングが破損していないか確かめてください。

破損していた場合は、お買い求めの販売店に交換を依頼してください。

■定油面器のストレーナの掃除（適時）

●定油面器には、ごみを除くためのストレーナがついています。
ごみがたまると、灯油の流れを妨げて、十分な火力が出なくなります。
次のように掃除してください。

1．油タンクの送油バルブを閉じてください。

2．ストレーナの掃除口に荷札などの厚紙を差しこんで、油ガイドを作り、その下に容器を置いてストレーナの止めねじをゆるめてはずしてください。
定油面器の汚れた灯油やごみが全部流れ出ます。

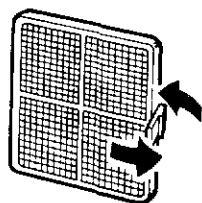
3．ストレーナを取り出して、きれいな灯油の中ですすぎ洗いをしてください。（水で洗わないでください。）

組立てるときは
●ストレーナゴムパッキンを忘れぬようにしてください。
●ストレーナを逆に入れないでください。また、穴位置が、必ず右横になるように取り付けてください。
●ストレーナの止めねじを、固く締め付けてください。
●油もれがないか確認してください。

■冷却用送風機の掃除（適時）

●冷却用送風機ファンにごみやほこりがたまると、送風力が弱くなり、音が大きくなってくることがあります。このようなときには、冷却用送風機ファンのほこりを取り除いてください。
●ストーブ後側の冷却用送風機ファンフィルターをはずし、ブラシなどで静かにほこりを取り除いてください。
●掃除終了後、ファンフィルターは、必ずもとどおりに取り付けてください。

■冷却用送風機ファンフィルターの掃除（適時）

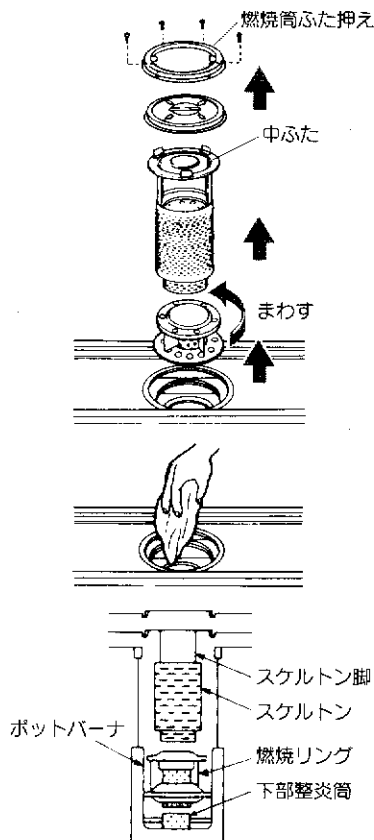
●ファンフィルターがごみやほこりで目づまりすると、送風力が弱くなり排気温度上昇の原因になります。〔過昇防止装置（安全サーモスタット）の働きで運転が停止する場合があります。〕
次の要領でストーブ裏面のファンフィルターの掃除を行ってください。

1．左図の矢印のようにファンフィルターに力を加えながら引き出し、ストーブ裏面から取りはずしてください。
2．ブラシなどでフィルターのほこりを取り除いてください。
3．掃除が終わりましたら、もとどおりに取り付けてください。

■点火ヒータの点検（シーズン初め）

●点火ヒータや点火しんにすすが付着しますと、赤熱が低下したり、油の吸上げが悪くなったりして点火しにくくなり、着火不良の原因になります。
点火ヒータの脱着は入念に行う必要がありますので（燃焼用空気の気密性保持のため）、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。

■ポットバーナの掃除（適時）

●ご注意 **掃除は、ストーブを消火させ充分冷却してから、行ってください。**
熱い状態で行うとやけどのおそれがあります。

●ポットバーナにすすがついて炎の形が不揃いになったときや、ポットバーナの底にすすやカスがたまりすぎて着火がおそくなったときは、次のようにしてすすを取り除いてください。

1.上面ガードをはずして4本のねじをはずし、燃焼筒ふた押えを取ってください。

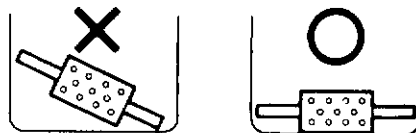
2.燃焼筒ふたをはずしてください。

3.スケルトンは中ふたに取り付いています。スケルトンをガラス円筒にあてないようにして、取りはずしてください。

4.燃焼リングをまわして取り出してください。

5.ポットバーナ底部の下部整炎筒を取り出してください。

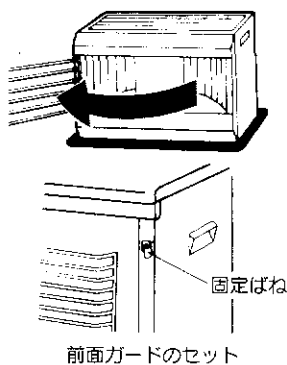
6.点火ヒータ、点火しんをいためないように、ポットバーナ内部のすすをドライバーなどでかき落としてから、布などでふきとってください。

7.組立ての際、燃焼リング及び、下部整炎筒は、左図のように正しく確実に取り付けてください。

●ポットバーナ、燃焼リングを損傷したまま使用しますと、燃焼が悪くなります。ドライバーなどでつついてみて穴があいたり、欠けた場合は新しいものと交換してください。
ポットバーナの交換は、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。

■反射板・ガラス円筒の掃除（適時）

●ご注意 **掃除は、ストーブを消火させ充分冷却してから、行ってください。**
熱い状態で行うとやけどのおそれがあります。

●反射板及びガラス円筒にほこりがたまりますと、反射効率が悪くなるばかりでなく危険ですので、次の要領で適時掃除をしてほこりを取り除いてください。

前面ガードのセット

1. 前面ガードを右側の固定ばね（2個）からはずし左側にまわしてください。
2. ガラス円筒を割らないように注意して、掃除機などで内部のほこりをきれいに掃除してください。
3. やわらかい布などで、反射板及びガラス円筒をきれいに拭いてください。
4. 掃除が終わりましたら、もとどおりにセットしてください。

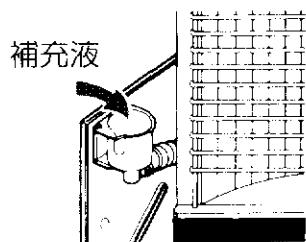
●前面ガードは、きちんと取り付けてください。

■ガラス円筒内部の掃除（適時）

●[ご注意] 掃除は、ストーブを消火させ充分冷却してから、行ってください。
熱い状態で行うとやけどのおそれがあります。

●長期間の使用や、油だまりによる大燃焼の後にはガラス円筒がすすけることがあります。
ガラス円筒がすすけて炎が見えにくくなったときは、17ページ「ポットバーナの掃除」の項にしたがい、スケルトンをはずしてガラス円筒を掃除してください。

●ガラス円筒には、水をかけたり、衝撃を与えたりしないよう注意してください。
●運転中にガラスが徐々にすすけた場合は、しばらくの間（約30分間）火力を大きくすることにより、すすを除去することができます。

■循環水の補給（適時）

シスターンタンク内の循環水は、少しずつ蒸発しますので、ときどき確認して、循環水が不足している場合は、そのつど規定水位まで床暖房専用補充液を補給してください。

●給水口扉を開き、床暖房専用補充液を上限水位まで追加してください。
（配管などからの水もれで補給する場合は、床暖房用循環液を入れてください。）

●コロナ純正床暖房用循環液は、凍結予防の他に床暖房に使用される機器（ストーブ・床暖パネル・配管部品など）の防錆効果を目的に作られた循環液で、すでに純水で適正な濃度に調合してありますので、試運転時にはこのままストーブに入れてください。
●他社銘柄の防錆剤、不凍液（特に車両用など）を使用したり、混合したりしますと防錆効果が発揮されず機器の耐久性がそこなわれたり、粘度があわずポンプの性能が十分発揮されずに、沸騰してしまうことがあります。
●循環液は、常温では引火しませんが、加熱されたストーブの上などにかかると着火することがありますので、取り扱いには十分注意してください。
●循環液は３年を目安に入れ替えてください。（開封した循環液も含む）
●循環液の凍結温度は、－20℃に調合されています。

■温水配管の水もれ確認（適時）

●ストーブ内部や温水配管接続部分から水もれがないことを確認してください。

■地震などの災害が発生したときの点検について

●地震などの災害が発生し、ストーブに振動や衝撃が加わったときは、運転前に必ず次の点検を行ってください。
・給排気筒まわりのはずれ、もれの確認
・灯油配管からのもれの確認
点検で異常が見つかった場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

9.定期点検

長期間ご使用になりますと、ストーブの点検が必要です。
２シーズンに１回程度、シーズン終了後などに点検を実施してください。点検のご相談は、お買いあげ店または修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会(TEL 03-3499-2928)でおこなう技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など〕のいる店までお問い合わせください。

使用中に異常がありましたら、次表により原因を調べて処置をしてください。

原因のわからないときや、処置のむずかしいときは、お買い求めの販売店、またはお近くのコロナお客

原因 ＼ 現象	E1（途中消火）	E2（点火しない）	E3（対震作動）	E4（安全サーモ作動）	E5（排気管抜け検知作動）	E6（ルームサーモリード線はずれ）	E7（停電）	E0（安全サーミスタ作動）	EA（燃焼用送風機異常検出）	F1（熱交サーモ作動）	F2（湯温サーミスタリード線はずれ）	灯油がポットの底に出てこない
点火ヒータの断線		●										
点火ヒータと点火しんとの位置関係が悪い		●										
対震自動消火装置が作動した			●									
送油バルブが閉まっている	●	●										●
ゴム製送油管に空気だまりがある	●	●										●
定油面器に水、ごみの目づまり	●	●										●
給排気筒の設置が基準通りでない												
ファンフィルターにほこりがたまった				●				●				
給排気筒工事不適当のため逆風現象がある	●											
燃焼リングの取付けが悪い												
給排気筒のつまり												
給排気筒の接続部にすきまがある												
油もれがある												
定油面器（電磁ポンプ）の故障	●	●										
切替サーモスタットの故障		●										
プリント配線板の故障	●	●										●
電流ヒューズが切れている												
循環ポンプの不良										●		
シスターンの循環水不足										●		
温水配管がつぶれている。バルブが閉じている										●		
アクチュエータの不良（リニアダンパーが開かない）												
過昇防止装置（安全サーモスタット）の作動				●								
給排気筒接続部がはずれている 排気管抜け検知用リード線端子接続のゆるみ					●			●				
ルームサーモリード線がはずれている						●						
停電があった（1秒以上-E７表示）							●					
湯温サーミスタリード線がはずれている											●	
燃焼用送風機の故障。端子がはずれている									●			
給排気筒トップ先端がおおわれている	●											
ルームサーモ取付位置が悪い												

様ご相談窓口にご連絡ください。

※設定室温表示にモニターサインが表示されます。

炎が大きくならない	黒煙を出して燃える	ガラス円筒がすすける	音をたてて燃える	灯油のにおいがする	爆発的な燃焼をする	電源が入らない	正常運転するがパネルがあたたまらない	沸とう音がする	振動が大きい	室温が低いのに火が大きくならない	処置方法
											販売店に修理を依頼する
											販売店に修理を依頼する
											点検後、再度点火操作をする
											開く
●											ゴム製送油管を振る。山形になっている所は平に直す
●											送油バルブをしめてストレーナをはずし、掃除する。油タンクの水を抜く
	●	●									基準通りに設置する
											ファンフィルターのほこりをブラシなどで掃除する
	●	●	●	●	●						給排気筒の取付けを適正にする
	●	●	●								正しく取り付ける
	●	●	●								給排気筒を掃除する
				●							すきまをなくす
				●							もれ箇所を締め直す
●	●	●									販売店に修理を依頼する
●											販売店に修理を依頼する
●						●					販売店に修理を依頼する
						●					販売店に修理を依頼する
							●	●	●		販売店に修理を依頼する
							●		●		規定水位まで補充液を入れる
							●	●			温水配管のつぶれを直す。バルブを開く
							●				販売店に修理を依頼する
											冷却用送風機のファンフィルターを掃除する 冷却用送風機故障の場合は修理を依頼する
											給排気筒接続部のはずれを直す ゆるみを直す
											はずれを直す
											設定室温、時刻などをセットし再度点火操作をする
											はずれを直す
	●	●									販売店に修理を依頼する
	●	●	●								おおっているものを取り除く
										●	適正な位置に取り付け直す

■部品交換のときの注意

⚠注意 不完全な修理、調整は危険ですので、部品の交換、調整が必要の場合には、お買い求めの販売店又は、修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会で行う技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など〕のいる販売店にご相談ください。

部品交換はコロナ純正部品とご指定ください。

部品ご入用の際には、コロナ製品取扱販売店で必ずコロナ純正部品とご指定ください。
純正部品以外の部品をご使用になりますと、性能が十分に発揮されないばかりか、ストーブを損傷したり思わぬ事故の原因になります。

12.保管（長期間使用しない場合）

設置したままで保管される場合やしまわれるときは、日常の点検・手入れの項を参照し、次の要領で保管してください。

■手入れのしかた

1. ⚠注意 **電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。**
2. 油タンクの灯油は、すっかり出してください。中に水分やごみが残ったままにしておきますと、油タンクが腐食する原因になります。
3. 定油面器のストレーナをはずして、水分やごみを除き、定油面器の中の灯油を抜いてください。
4. ファンフィルターのごみやほこりを取り除いてください。
5. 前板をはずして、掃除機などで内部のほこりを取り除いてください。
6. 塗装部分は、湿った布で汚れを落としてから、からぶきしてください。
7. 燃焼室のサビなどがある所をペーパーで磨き「補修用の塗料」（別売品）で塗装してください。

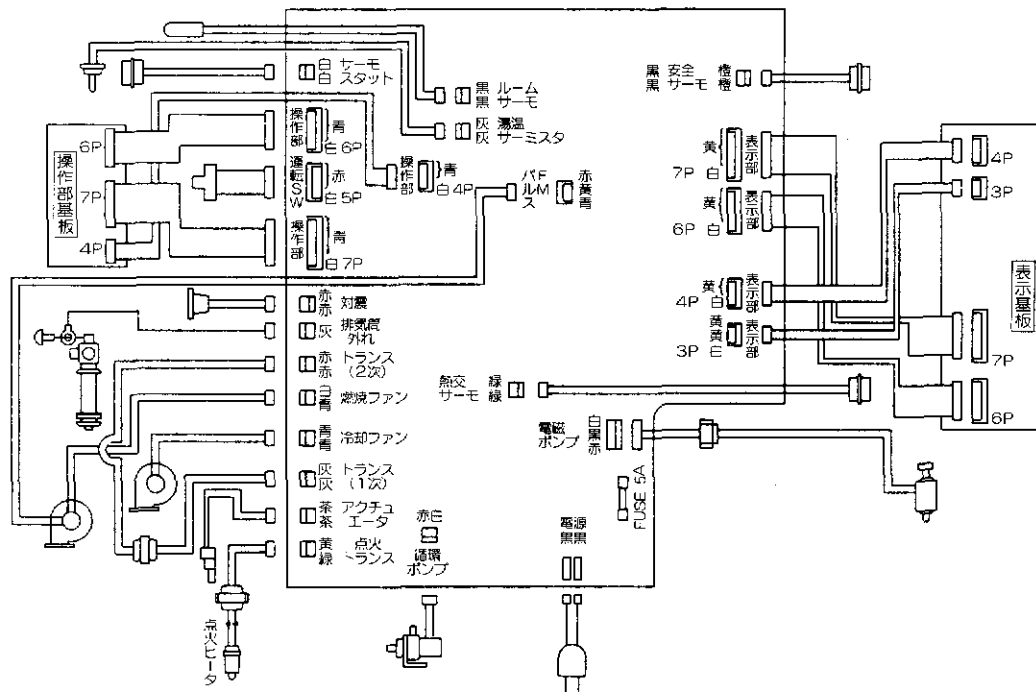
■保管方法

1. きれいになったら、乾燥した場所に横倒しにしないでおしまいください。
2. 床暖の配管を接続したままで保管する場合は、上限水位まで補給しておいてください。
3. ストーブ内の循環水を抜いて保管する場合は、エアー抜きバルブを開いておき、エアー抜きバルブ配管内も乾燥させてください。
4. 「取扱説明書」は、大切に保管してください。

仕　様

項目			仕様
型式の呼び			UH-F65HRF（基本型式　UH-F65GR）
種類			ポット式・屋内用・強制給排気形・自然対流形・床暖房用
点火方式			電気点火式
使用燃料			灯油（JIS1号灯油）
燃料消費量	床暖房運転	最大	0.78L/h
		最小	0.22L/h
	ストーブ単独運転	最大	0.768L/h
		最小	0.198L/h
発熱量及び熱効率	床暖房運転	最大	28,890kJ/h　熱効率 86.6%
		最小	8,150kJ/h　熱効率 83.8%
	ストーブ単独運転	最大	28,450kJ/h　熱効率 86.0%
		最小	7,330kJ/h　熱効率 78.2%
暖房出力	床暖房運転	最大	6.95kW　循環水量 150L/h
		最小	1.90kW　循環水量 100L/h
	ストーブ単独運転	最大	6.80kW
		最小	1.59kW
最大床暖房出力（床暖房運転）			最大燃焼時　1.51kW　循環水量 150L/h
熱効率		最高	86.6%（床暖房運転 目盛大のとき）
		最低	78.2%（ストーブ単独運転 目盛微少のとき）
標準適室	床暖房運転	温暖地	木造 29.5㎡（18畳）　コンクリート 41.5㎡（25畳）
		寒冷地	木造 29.5㎡（18畳）　コンクリート 48.0㎡（29畳）
	ストーブ単独運転	温暖地	木造 29.5㎡（18畳）　コンクリート 39.5㎡（24畳）
		寒冷地	木造 29.5㎡（18畳）　コンクリート 46.0㎡（28畳）
本体水容量			2L（器具内蔵シスターン上限水位時）
床暖房用熱交換器の最高使用圧力			シスターン大気開放
外形寸法			高さ600㎜　幅748㎜　奥行365㎜（置台を含む）
質量			35kg
電源電圧及び周波数			100V　50Hz/60Hz
定格消費電力	床暖房運転		点火時 103/107W 最大燃焼時 51/57W・最小燃焼時 36/42W
	ストーブ単独運転		点火時 82/84W 最大燃焼時 26/27W・最小燃焼時 11/12W
床パネルの接続面積			4.5～16.5㎡（3畳～10畳）（最大燃焼時）
温水配管接続口			外径φ8㎜ニップル
給排気筒の型式の呼び			QU4-3
給排気筒の呼び径			D40
給排気筒の壁貫通部の孔径			φ75㎜
排気温度	床暖房運転		260℃以下
	ストーブ単独運転		260℃以下
電流ヒューズ			5A
安全装置			対震自動消火装置・点火安全装置・停電安全装置
その他の装置			再点火安全装置・循環水過昇防止装置・排気管抜け検知装置・過電流防止装置 過昇防止装置・不着火検出装置・燃焼用送風機異常検出装置・安全サーミスタ
付属品			置台1個・バックチューブ2.5m・本体固定金具2個・ホースバンド2個 給排気筒セット1組・スリーブ1個・遮熱板1個・ゴム製送油管締付バンド2個

備考）・標準適室は、社団法人・日本ガス石油機器工業会の算定基準によります。

配線図

14.アフターサービス

■保証について

●このコロナ石油ストーブには保証書がついています。
保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。内容をよくお読みのあと、大切に保管してください。
●保証期間はお買い上げ日から1年間です。
●次のような原因による故障及び、事故につきましては、保証の対象になりませんので注意してください。（詳しくは保証書をお読みください。）
■変質灯油や不純灯油など、また灯油以外の燃料使用による故障や事故。
■誤った使用方法による故障や事故。

■修理を依頼されるときについて

●「故障・異常の見分け方と処置方法」（19・20ページ）にしたがってお調べください。直らないときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。
●ご連絡いただきたい内容は次の通りです。
① 品名　② 型式の呼び　③ お買い上げ日　④ 故障の状況（出来るだけ具体的に）
●修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書の規定にしたがって、販売店が修理させていただきます。
●保証期間が過ぎているときは、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。
●ご不明な点や修理に関するご相談は、お買い上げの販売店または、この取扱説明書の裏表紙に記載されている「お客様ご相談窓口」にお問い合わせください。
●修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

■補修用性能部品について
●当社は、この製品の補修用性能部品を製造打ち切り後、7年保有しています。
●補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■故障・修理の際の連絡先
●お買い上げの販売店または、この取扱説明書の裏表紙に記載されている「お客様ご相談窓口」にご連絡ください。

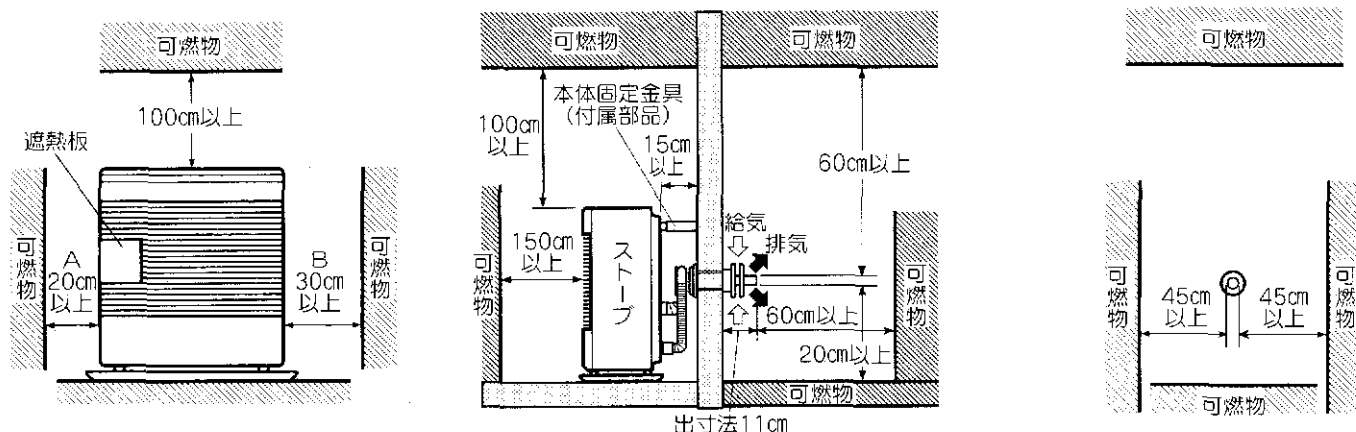
据え付け・移設工事は販売店に依頼する

据え付けや移設工事は販売店または、据え付け業者に依頼し、お客様ご自身では行わないでください。

据え付け場所の選定及び標準据え付け例

据え付けについては、火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準があります。工事説明書（工事編）の『特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）』をお読みになり、販売店又は据え付け業者とよくご相談してください。また、「標準据え付け例」については、下図を参照してください。

標準据え付け例

●遮熱板を取り付けない場合は、A寸法を30cm以上にしてください。
●点検・手入れのため、B寸法を30cm以上にしてください。

●側方障害物は、両側にあってもよいが給排気筒と障害物、可燃物との距離は45cm以上とってください。
●前方に塀や建物がある場合は給排気筒先端と前方障害物との距離は60cm以上離し、かつ上方および両側方に気流を阻止する障害物がないようにしてください。
●給排気筒下面は地面から20cm以上離すようにしてください。なお積雪地域では、給排気筒先端が雪でふさがれるおそれのない高さを確保してください。

●木造の建物で壁にメタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りをしてある場所に給排気筒を通すときは、それらの金属部に接しないように電気的絶縁をしてください。
●壁に穴をあける場合、壁の内部にある電気配線・ガス・水道の配管にあたらない場所を選んでください。

給排気筒を延長する場合の注意

●給排気筒を延長する場合は、3m3曲がり以下で取付けられる場所を選定してください。

積雪地区における注意

●積雪の多い地方では、積雪時に給排気筒が雪でふさがれないような取付場所を選定してください。また、風がよどむような場所では、排ガスを再度吸い込んで不完全燃焼を起こすことがあります。

据え付け後の確認

据え付けが終わりましたら、もう一度、工事説明書（工事編）の『特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）』をお読みになり、工事説明書に記載されているとおり据え付けられているかどうかを確認してください。

試運転

試運転は販売店又は据え付け業者とご一緒に必ず行ってください。

■運転準備

●⚠注意 **電源プラグをコンセントに刃の根元まで確実にさしこんでください。**

●油タンクに給油し、送油経路の空気抜きをしてください。

●送油経路やストーブより油もれがないか確認してください。

●配管途中にバルブなどがある場合には、全開にしてください。

●安全装置をセットしてください。
〔定油面器リセットボタンのセット〕

●タイマー運転になっていませんか。

■循環液の給水方法

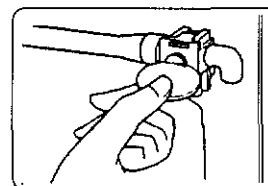
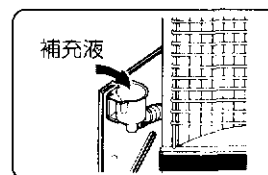
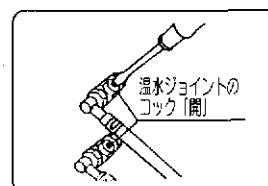
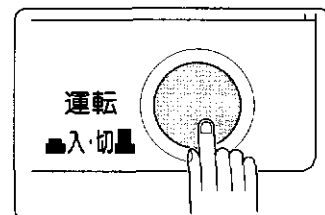
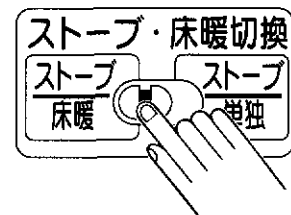
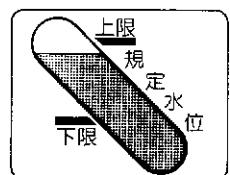
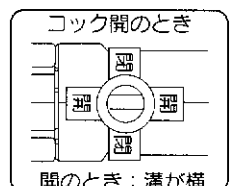
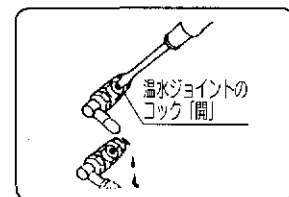
1．給水前にエアー抜きバルブが全開になっていることを確認してください。
（工場出荷時には開いてあります。）
必ず全開にしてください。

2．ストーブ左側面の水位計で、シスターンタンクの規定水位（上限水位）まで循環液（コロナ床暖房用循環液）を入れてください。

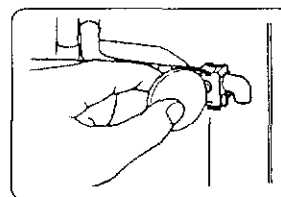
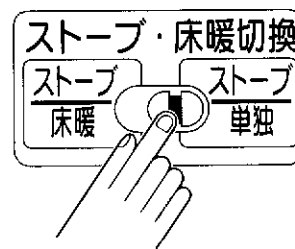
3．操作部の床暖切換スイッチを「ストーブ床暖房」にセットしてください。

4．運転スイッチを押して「入」にしてすぐに「切」にしてください。
●この操作で循環ポンプと燃焼用送風機が約８分間運転します。
●運転スイッチが「入」のままですと、点火することがありますので、必ず「切」にしてください。

5．器具の左背面にある往きと戻り両方の温水ジョイントのコックを、「開」にしてください。

6．シスターンタンクの水位が下がり始めますので上限水位まで循環液を給水してください。
（シスターンタンクの水位が下がらなくなるまで給水を続けてください。）
●循環液の給水が終了する前に循環ポンプが停止した場合には、また運転スイッチを押してすぐに「切」にしてください。循環ポンプが再度約８分間運転しますので循環水の給水を継続できます。
●温水配管施工などの関係で、エアー抜きバルブではエアーが抜けきらない場合は、次の方法があります。
（温水往き口のコックを閉にして温水配管接続をはずし、コックを開いて循環水を少しずつ流し、エアーを抜く（循環液がこぼれないように容器を用意してください。））

7．シスターンタンクの水位が下がらなくなったら循環液の給水は終了です。
エアー抜きバルブを「閉」にしてください。
●循環ポンプの運転音が静かになります。

8．温水配管路に、水もれのないことを確認してください。
●運転の途中で床暖パネル等に水もれがあった場合は、循環ポンプを停止させてください。床暖切換スイッチを「ストーブ単独」に切換えることにより停止させることができます。

9．異常のないことを確認したら完了ですので操作部の床暖切換スイッチを「ストーブ単独」に切換えて循環ポンプを停止させてください。

■運転

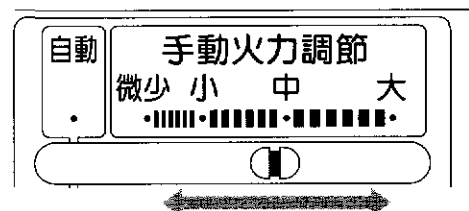
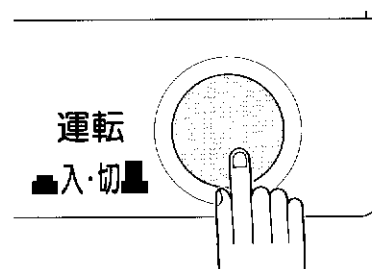
●運転は、ストーブ床暖房運転で行い、正常に運転することを確かめてください。

ストーブ床暖房運転

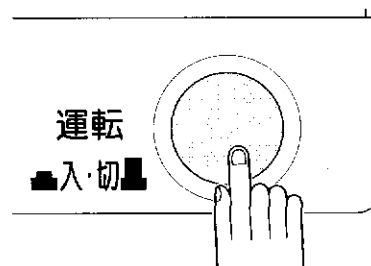
1．操作部の床暖切換スイッチを「ストーブ床暖房」にセットしてください。
2．運転スイッチを押して「入」にしてください。
●ストーブは点火動作を開始すると同時に、電磁ポンプの空打ち音（初使用時）が数秒しますが異常ではありません。

● ご注意 **初めてお使いになるときは、耐熱塗料などが焼けて煙と臭いがでます。窓をあけて部屋の換気をしてください。**
●約９～12分間の予備燃焼が終わると本燃焼に切り替わります。
3．温水配管経路に、水もれのないことを確認してください。

●運転の途中で温水配管経路に水もれがあった場合
①操作部の床暖切換スイッチを「ストーブ単独」に切りかえて循環ポンプを停止させてください。
②運転スイッチを押して「切」にしてストーブの運転を停止してください。

4．異常がなければ、火力調節つまみを「微少」～「大」に設定してください。
しばらくして床暖パネルが暖かくなることを確認してください。
●炎の状態は、青い炎の中にいくらかの黄色い炎（赤火）がまじっても異常ではありません。

■消火の手順

ストーブ床暖房運転

●運転スイッチを押して「切」にしてください。
運転ランプが消灯します。
燃焼室が冷却すると自動的に燃焼用送風機、循環ポンプが停止し、時刻表示以外のすべてのランプが消灯します。

●正常運転しない場合は、19～20ページ「故障・異常の見分け方と処置方法」を参照してください。
●長期間の保管後、再び設置する場合も「試運転」の手順にしたがい、試運転を行ってください。

お客様ご相談窓口一覧表

修理サービスや製品についてのご相談は機種名をご確認の上、お買いあげの販売店または下記のご相談窓口にご依頼ください。

ご転居やご贈答品などでお困りの場合は、下記のお近くの窓口にご相談ください。
名称、所在地、電話番号は、変更する場合がありますのでご了承ください。

●アフターサービスのお問い合わせは下記へどうぞ

コロナサービスセンター
フリーダイヤル 0120-919-302
(修理受付専用ダイヤル)
FAX 0120-919-322

携帯電話・PHS等からは最寄のサービスセンターへ直接おかけください。

北海道・東北地区のお客様は最寄のサービスセンターへ直接おかけください。

地区	名称	所在地	〒	TEL	FAX
北海道地区	札幌支店	札幌市白石区平和通16丁目南1-19	〒003-0028	TEL(011)864−0440(代表)	FAX(011)863−3154
	札幌サービスセンター	札幌市白石区米里3条2丁目6-25	〒003-0875	TEL(011)879−2121(代表)	FAX(011)871−2000
	函館営業所	函館市西桔梗町21-2	〒041-0824	TEL(0138)48−6070(代表)	FAX(0138)48−6080
	旭川営業所	旭川市東旭川南1条2丁目2-5	〒078-8261	TEL(0166)37−2330(代表)	FAX(0166)37−2338
	帯広営業所	帯広市西12条南1丁目30-1	〒080-0022	TEL(0155)35−7518(代表)	FAX(0155)35−7510
	釧路営業所	釧路市花園町4-17	〒085-0038	TEL(0154)24−4191(代表)	FAX(0154)24−0451
	北見営業所	北見市美芳町9-1-30	〒090-0064	TEL(0157)26−2103(代表)	FAX(0157)26−2107
東北地区	青森支店	青森市古館1丁目12-38	〒030-0946	TEL(017)742−8255(代表)	FAX(017)742−8275
	青森サービスセンター	青森市古館1丁目12-38	〒030-0946	TEL(017)743−2971(代表)	FAX(017)743−1118
	秋田営業所	秋田市泉中央4丁目4-18	〒010-0917	TEL(018)864−5671(代表)	FAX(018)864−8468
	秋田サービスセンター	秋田市外旭川三千刈109-1	〒010-0802	TEL(018)864−5219(代表)	FAX(018)864−5760
	八戸営業所	八戸市売市4丁目4-7	〒031-0073	TEL(0178)24−5289(代表)	FAX(0178)45−4290
	弘前営業所	弘前市田園1-2-1	〒036-8086	TEL(0172)28−3910(代表)	FAX(0172)28−0191
	弘前サービスセンター	弘前市田園1-2-1	〒036-8086	TEL(0172)26−4770(代表)	FAX(0172)29−1133
	盛岡営業所	盛岡市門2-1-42	〒020-0823	TEL(019)622−4791(代表)	FAX(019)622−5244
	盛岡サービスセンター	盛岡市門2-1-42	〒020-0823	TEL(019)604−0281(代表)	FAX(019)604−0283
	水沢営業所	奥州市水沢区水沢工業団地4丁目79	〒023-0002	TEL(0197)22−4155(代表)	FAX(0197)22−4452
	仙台支店	仙台市宮城野区日ノ出町1-7-32	〒983-0035	TEL(022)235−3181(代表)	FAX(022)236−8810
	仙台サービスセンター	仙台市宮城野区日ノ出町1-7-31	〒983-0035	TEL(022)783−1791(代表)	FAX(022)783−1792
	郡山営業所	郡山市亀田1-51-9	〒963-8033	TEL(024)938−2240(代表)	FAX(024)938−3021
	郡山サービスセンター	郡山市安積町荒井字撫子東30-1	〒963-0111	TEL(024)947−4654(代表)	FAX(024)946−7651
	会津サービスセンター	会津若松市門田町徳久字竹之元885-10	〒965-0843	TEL(0242)26−3211(代表)	FAX(0242)26−3216
	山形営業所	山形市東青田3-6-28	〒990-2423	TEL(023)642−3255(代表)	FAX(023)642−3254
	山形サービスセンター	山形市東青田3-6-28	〒990-2423	TEL(023)631−7381(代表)	FAX(023)631−7391
	庄内営業所	酒田市錦町1-183-1	〒998-0103	TEL(0234)31−0571(代表)	FAX(0234)31−0581
関東地区	東京支店	東京都北区豊島8-4-8	〒114-0003	TEL(03)3927−1151(代表)	FAX(03)3927−1160
	首都圏サービスセンター	東京都北区豊島8-4-8	〒114-0003	TEL(03)3911−1131(代表)	FAX(03)3927−1130
	水戸営業所	水戸市笠原町653-2	〒310-0852	TEL(029)241−2172(代表)	FAX(029)241−4268
	千葉営業所	松戸市高塚新田95-5	〒270-2222	TEL(047)312−8330(代表)	FAX(047)312−8338
	さいたま営業所	さいたま市北区宮原町1-674-2	〒331-0811	TEL(048)651−1231(代表)	FAX(048)651−6370
	つくば営業所	つくば市谷田部6788-19	〒305-0861	TEL(029)839−5325(代表)	FAX(029)836−1913
	横浜支店	横浜市戸塚区原宿4丁目7-13	〒245-0063	TEL(045)852−4008(代表)	FAX(045)852−5540
	立川営業所	立川市西砂町1-66-13	〒190-0034	TEL(042)531−6771(代表)	FAX(042)531−0496
	甲府営業所	山梨県中巨摩郡昭和町西条2491-2	〒409-3866	TEL(055)268−1567(代表)	FAX(055)268−1569
	甲府サービスセンター	山梨県中巨摩郡昭和町西条2491-2	〒409-3866	TEL(055)268−1568(代表)	FAX(055)268−1571
	高崎支店	高崎市問屋町西1-3-22	〒370-0007	TEL(027)361−4806(代表)	FAX(027)361−9139
	高崎サービスセンター	高崎市問屋町西1-3-22	〒370-0007	TEL(027)363−8259(代表)	FAX(027)364−3228
	宇都宮営業所	宇都宮市簗瀬町2313	〒321-0933	TEL(028)632−5105(代表)	FAX(028)632−5205
	宇都宮サービスセンター	宇都宮市簗瀬町2313	〒321-0933	TEL(028)632−5180(代表)	FAX(028)610−4607
	太田営業所	太田市高林東町2375	〒373-0825	TEL(0276)38−6571(代表)	FAX(0276)38−5508
信越・北陸地区	新潟支店	三条市曲渕3-2-15	〒955-0864	TEL(0256)32−2126(代表)	FAX(0256)35−8519
	三条サービスセンター	三条市曲渕3-2-15	〒955-0864	TEL(0256)32−2129(代表)	FAX(0256)32−2137
	新潟東営業所	新潟市江南1-6-41	〒950-0855	TEL(025)286−9131(代表)	FAX(025)286−3313
	長野営業所	長野市大豆島5312	〒381-0022	TEL(026)221−5111(代表)	FAX(026)221−0039
	長野サービスセンター	長野市大豆島5312	〒381-0022	TEL(026)221−2304(代表)	FAX(026)221−1039
	松本営業所	松本市笹賀大久保原7852	〒399-0033	TEL(0263)26−0051(代表)	FAX(0263)25−9961
	金沢支店	金沢市駅西新町1-1-25	〒920-0027	TEL(076)260−0567(代表)	FAX(076)260−0775
	金沢サービスセンター	金沢市駅西新町1-1-25	〒920-0027	TEL(076)260−0038(代表)	FAX(076)260−0738
	富山営業所	富山市田中町2-3-15	〒930-0985	TEL(076)444−0567(代表)	FAX(076)444−0611
	福井営業所	福井市和田東1-607	〒918-8237	TEL(0776)23−0567(代表)	FAX(0776)23−0580
東海地区	名古屋支店	名古屋市港区入場1-1903	〒455-0803	TEL(052)383−3330(代表)	FAX(052)381−1266
	名古屋サービスセンター	名古屋市港区入場1-1903	〒455-0803	TEL(052)384−5670(代表)	FAX(052)381−5244
	静岡営業所	静岡市駿河区高松2-15-30	〒422-8034	TEL(054)238−0005(代表)	FAX(054)238−0006
	静岡サービスセンター	静岡市駿河区高松2-15-30	〒422-8034	TEL(054)238−0016(代表)	FAX(054)238−0822
	岐阜営業所	岐阜市六条南2-7-8	〒500-8358	TEL(058)268−7555(代表)	FAX(058)268−7550
	津営業所	津市高茶屋3-29-38	〒514-0819	TEL(059)234−8471(代表)	FAX(059)234−8472
	沼津営業所	沼津市西椎路888-1	〒410-0303	TEL(055)968−6210(代表)	FAX(055)968−6212
	岡崎営業所	岡崎市大平町沢添49	〒444-0007	TEL(0564)25−0275(代表)	FAX(0564)25−1726
近畿・四国地区	大阪支店	吹田市南金田1-8-47	〒564-0044	TEL(06)6380−2111(代表)	FAX(06)6386−7262
	大阪サービスセンター	吹田市南金田1-8-47	〒564-0044	TEL(06)6386−5670(代表)	FAX(06)6386−5588
	高松営業所	高松市今里町1-8-5	〒760-0078	TEL(087)835−1711(代表)	FAX(087)835−0160
	京都営業所	京都市伏見区竹田段ノ川原町70-1	〒612-8414	TEL(075)643−2002(代表)	FAX(075)643−0870
	神戸営業所	神戸市西区枝吉5-132	〒651-2133	TEL(078)922−2431(代表)	FAX(078)922−2438
	彦根営業所	彦根市正法寺町南出78	〒522-0024	TEL(0749)24−6239(代表)	FAX(0749)26−2116
	福知山営業所	福知山市荒河東町68	〒620-0061	TEL(0773)22−0827(代表)	FAX(0773)23−7592
中国地区	広島支店	広島市安佐南区祇園3-27-20	〒731-0138	TEL(082)871−3310(代表)	FAX(082)871−3306
	広島サービスセンター	広島市安佐南区祇園3-27-20	〒731-0138	TEL(082)871−3315(代表)	FAX(082)871−0272
	岡山営業所	岡山市辰巳35-103	〒700-0976	TEL(086)243−7751(代表)	FAX(086)243−7191
	米子営業所	米子市目久美町235-1	〒683-0035	TEL(0859)33−8157(代表)	FAX(0859)23−0709
	徳山営業所	周南市徳山字一ノ井手5631-4	〒745-0882	TEL(0834)22−5567(代表)	FAX(0834)22−5589
九州地区	福岡支店	福岡市博多区東比恵2-2-40	〒812-0007	TEL(092)474−5771(代表)	FAX(092)474−5775
	福岡サービスセンター	福岡市博多区東比恵2-2-40	〒812-0007	TEL(092)474−6001(代表)	FAX(092)474−6414
	北九州営業所	北九州市小倉北区愛宕2-6-4	〒803-0828	TEL(093)592−8611(代表)	FAX(093)592−8666
	鹿児島営業所	鹿児島市田上7-16-5	〒890-0034	TEL(099)281−1321(代表)	FAX(099)281−1252
	熊本営業所	熊本市尾ノ上1-11-12	〒862-0913	TEL(096)367−7361(代表)	FAX(096)369−6323
	長崎営業所	長崎県西彼杵郡時津町左底郷浜田74-1	〒851-2106	TEL(095)882−7710(代表)	FAX(095)882−7767
	宮崎営業所	宮崎市霧島3-59-2	〒880-0032	TEL(0985)29−1680(代表)	FAX(0985)25−0685
	大分営業所	大分市三佐1-19-7	〒870-0108	TEL(097)523−5161(代表)	FAX(097)523−5162
沖縄地区	沖縄営業所	宜野湾市宇地泊738 シーサイド・パーク102	〒901-2227	TEL(098)897−5677(代表)	FAX(098)897−5679

07096002

本社・工場	三条市東新保7-7	〒955-8510	TEL(0256)32−2111(大代表)
柏崎工場	柏崎市宝町2-58	〒945-0817	TEL(0257)23−5175(代表)
長岡工場	長岡市下条町倉ノ浦1069	〒940-1146	TEL(0258)22−2121(代表)

株式会社コロナ

205WA0657-0123(J)